

平成 28 年 4 月 14 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 16 回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成 28 年 3 月 11 日（金） 13:30～16:30
開催場所	国立研究開発法人理化学研究所 東京連絡事務所
参加人数	25 名：上叢主査、浅見幹事、今野幹事、坂本幹事、根本幹事、糸賀委員、大石委員、小川委員、奥野委員、奥村委員、黒澤委員、坂本委員、佐藤委員、助川委員、谷内委員、坪井委員、中田委員、中根委員、平尾委員、松下委員、小林講師、島口講師、今塩氏（オブザーバー）、神田氏（オブザーバー）、細谷氏（オブザーバー）
議 事	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 次期委員会の設立申請について 上叢主査から、3/15 の原子力学会企画委員会で次期委員会の設立申請書案の説明をし、ご審議いただく旨の説明があった。</li><li>2. 講演 1 「重量モルタル吹き付け工法による遮蔽体設置法の開発」 小林講師、島口講師から、鉄系骨材とセメント等の複数の素材を配合した材料を乾式吹き付けで施工することにより製作する高密度モルタル RS ショットの開発経緯、施工方法、性能についてのご講演をいただいた。たくさんの質問があり、大きな関心が示された。</li><li>3. 講演 2 「<math>\gamma</math> 線ビルドアップ係数研究の推移（播磨先生の業績を通して）」 坂本(幸)委員から、播磨先生が長年にわたり研究されてきた <math>\gamma</math> 線ビルドアップ係数評価について詳細な講演をいただいた。播磨先生の研究成果は米国原子力学会の <math>\gamma</math> 線ビルドアップ係数の標準、日本原子力学会の <math>\gamma</math> 線ビルドアップ係数の標準の制定に大きく貢献し、その功績により播磨先生は様々な賞を受賞されている。日本の誇る素晴らしい研究成果の一つである。</li><li>4. 応用編内容検討 記載内容を議論。種々のコメントがあり、それらを踏まえて、目次案、執筆者を改定。</li><li>5. ISO 規格提案に関する議論 上叢主査から、ISO 規格で提案されようとしている放射線防護及び遮蔽のための群平均中性子、<math>\gamma</math> 線断面積多群ライブラリーのドラフト案の説明があり、この案に対しどのように回答するか議論した。</li><li>6. その他連絡事項 「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会は今回で終了。次年度からは、「遮蔽ハンドブック応用編」研究専門委員会として活動を行う。</li></ol>
備 考	

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 15 回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成 27 年 12 月 8 日（火） 13:30～16:40
開催場所	国立研究開発法人理化学研究所 東京連絡事務所
参加人数	18 名：上叢主査、浅見幹事、今野幹事、根本幹事、糸賀委員、大石委員、小川委員、奥村委員、黒澤委員、坂本委員、佐藤委員、助川委員、杉田委員、中村委員、中根委員、伴委員、平山委員、松下委員
議 事	<p>1. 委員交代について 東芝から JAEA に移られた郡司委員が委員を辞任され、後任として東芝の松下氏が委員になれる旨のアナウンスがあった（原子力学会企画委員会承認済み）。</p> <p>2. 講演「意外に知られていない核データ、放射線輸送計算に係る注意点」 今野委員から、以下の 3 点の内容で、核データまたはそれを処理したデータを輸送計算に使用する際の注意点の紹介がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 多群ライブラリに関する注意点</li> <li>② KERMA、DPA 断面積に関する注意点</li> <li>③ ベンチマーク実験（TIARA 遮蔽実験）解析例</li> </ul> <p>3. 次期委員会の設立申請について 上叢主査から、次期委員会の設立申請書案の説明があった。次期委員会は 2 年間（2017 年度まで）を予定し、主査は上叢委員、幹事は浅見委員、坂本委員、根本委員の継続が了承された。若干の表現を修正し、1 月か 2 月の原子力学会企画委員会で審議していただく予定。</p> <p>4. 遮蔽ハンドブック応用編に記載する内容について 記載内容を議論。種々のコメントがあり、それらを踏まえて、目次案、執筆者を改定。</p> <p>5. その他連絡事項 次回会合は 3 月前半を予定。次回の講演は、重量モルタル吹き付けによる遮蔽、播磨氏の功績紹介などとし、坂本（幸）委員にとりまとめをお願いした。</p>
備 考	

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 14 回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成 27 年 9 月 15 日（月） 13:30～16:50
開催場所	株式会社アトックス技術開発センター(千葉県柏市高田 1201)
参加人数	18 名：上叢主査、浅見委員、今野委員、奥野委員、助川委員、奥村委員、小川委員、坪井委員、糸賀委員、中田委員、平山委員、黒澤委員、中根委員、坂本委員、中村委員
議 事	<p>1. アトックス技術開発センターの見学          加藤センター長によるアトックス技術開発センターの概要説明の後、下記施設及び装置について見学を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子炉ウェル模擬施設</li> <li>・ ウェル壁面除染装置</li> <li>・ 原子炉建屋床面遠隔除染装置 RACCOON</li> <li>・ 高線量空間内における遠隔操作用ロボットと操作訓練施設</li> <li>・ 廃炉用切断解体装置</li> <li>・ プラスト除染装置</li> <li>・ ガンマ線照射施設 (60Co: 約 1PBq)</li> </ul> <p>2. 主査挨拶          遮蔽ハンドブック基礎編の販売状況について、以下のように報告された。前回委員会で報告された 100 部の増刷分 (2 刷) について 8 月末に完売したので、3 刷を行っているところである。これはもうすぐ仕上がる予定である。</p> <p>3. ICRS13-RPSD2016 の International Advisory Committee メンバーの推薦          標題について、中村委員から日本から 9 人推薦することの確認があった。主な役割は、Call for paper を配布し国際会議への参加者を募ることである。メンバーは 9 月中に事務局へ連絡する。</p> <p>4. 遮蔽ハンドブック (応用編) に記載する内容検討 (SH14-3)          上叢主査から標記について説明があり、遮蔽ハンドブック (応用編) に記載する内容を議論した。主なコメント及び審議決定事項は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6.4 節「中間貯蔵施設」という言葉は、現在においては福島に関連して意味が変わってしまっているため、「使用済燃料中間貯蔵施設」とすることに決定。</li> <li>・ 工業用リニアックの設計事例については、一般的な点減衰核法によるものであり、特徴的な遮蔽設計を行っているわけではないため、内容に含めないことに決定。</li> <li>・ 低レベル放射性廃棄物等の廃棄物施設の遮蔽設計については、6.6 節を「廃炉及び廃棄物」として含めることに決定。なお、例えば高レベル放射性廃液についての詳細は公開されていないことから具体例を示すことはでき</li> </ul>

	<p>ない。そのため、廃棄物施設全ての設計事例について網羅はできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7.4 節「粒子線治療施設」の後の 7.5 節を加速器 BNCT の内容にすることに決定。原稿執筆は京大炉の丸橋氏に依頼(中村委員経由)。7.6 節以降は、現在案の 7.5 節以降に従う。</li> <li>・ 新規性のある計算手法として、ベルギーの SCK/GEN が開発している VISIPLAN コードの概要を 4.6 節「今後の開発」の内容に含めることに決定。原稿執筆は中田委員。</li> <li>・ 2 章及び 6 章の取りまとめは、中田委員及び黒澤委員に決定。</li> <li>・ 7 章の取りまとめは、奥野委員に決定。</li> <li>・ 4.1 節「はじめに」の執筆は、奥村委員に決定。</li> <li>・ 7.1 節「RI 工業利用施設」の執筆者は、RI 工業利用施設について実際に経験のある人が担当すべきであることから、滅菌技術について知見を有する大石委員に依頼(中村委員経由)。</li> </ul> <p>5. 今後の予定</p> <p>次回会合は 12 月を予定。次回の講演は、他章節執筆者との情報共有を目的として、執筆内容に関する内容を含めたものとする。発表者は今野委員を予定。また、来年度の本研究専門委員会の新名称について“「遮蔽ハンドブック応用編」研究専門委員会”とするのはどうか、とする意見があった。</p>
備 考	

平成 27 年 9 月 30 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 13 回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成 27 年 6 月 15 日（月） 13:30～16:00
開催場所	国立研究開発法人理化学研究所 東京連絡事務所
参加人数	18 名：上叢主査、浅見幹事、今野幹事、坂本幹事、糸賀委員、岩下委員、植木委員、小川委員、奥野委員、奥村委員、黒澤委員、坂本委員、佐藤委員、助川委員、中田委員、中根委員、根本委員、平山委員
議 事	<p>1. 委員交代について</p> <p>三菱重工の森島委員が社内の人事異動に伴い委員を辞任され、後任として三菱重工の小川氏が委員になられる旨のアナウンスがあった（原子力学会企画委員会承認済み）。また、東芝の郡司委員が原子力機構の臨界安全部に移られ、委員継続、原稿執筆は難しいとの報告もあった。</p> <p>2. 遮蔽ハンドブック応用編に記載する内容について</p> <p>記載内容を議論。種々のコメントがあり、それらを踏まえて、目次案、出席委員の執筆希望箇所を改定。欠席された委員には、後日、議事録案送付の際に、執筆希望箇所を確認することにした。</p> <p>3. その他連絡事項</p> <p>次回会合は9月を予定。アトックス（柏）の施設見学も行う。</p>
備 考	